

• 会報第12号の発行によせて •

本年6月に京都市美術館別館で開催され、7月に島根県立美術館へ巡回した日本・ポーランド国際版画展の特集となります。この展覧会の感想を有年博行氏と島根展の報告を高橋恭子氏に伺いました。また作家紹介では、この展覧会で優秀賞を受賞された木版画のツツミアスカ氏とドモンコス紀子氏を取り上げました。それぞれ大変興味深い内容です。ごゆっくりとお読み下さい。



◆ *Asuka Tsutsumi*
“ .love .you #05”

H570×W850mm
水性木版拓刷り、裏打ち
2010



◆ *Noriko Domonkos*
“ 青い夜”

H580×W890mm
水性木版
2010

■特集

- ・島根巡回展を終えて
- ・日本・ポーランド国際版画展に想う

高橋 恭子
有年 博行

■作家紹介

ツツミ アスカ・ドモンコス 紀子

■活動報告

■掲示板

KYOTO版画2010

島根巡回展を終えて

島根巡回展担当 高橋 恭子

夢が現実に

三年前のアメリカ展準備のための総会のときだったでしょか…。坂爪先生、黒崎先生から、「島根に巡回展を持って貰えないだろうか…。」という会話を小耳に挟んだときは、まさか本当に実現するなんて思ってもいませんでした。また島根で現代版画が受け入れられるかどうかについても、不安材料でした。こうして無事に巡回展を終えることができ、しかも大盛況…。実質二年の準備期間中もあわせ、巡回展の開催にご尽力いただきました会員の皆様やお世話になつたたくさんの方々に感謝の気持ちを込めて、ご報告したいと思います。

ボランティア・大学生・高校生の力をかりて

搬入展示は、広い会場なので心配していましたが、佐久間、二階両氏の的確な指示によって京都の会員の皆様をはじめ、地元のボランティアで協力して、とても楽しく作業することができました。九州からも応援に駆けつけてくださいり、島根大学の学生や、地元の県立高校の生徒などたくさんの方々が汗を流してくれました。展示の仕上がりは上々。ポーランドの作品もゆつたりと鑑賞できる贅沢な空間構成に

国際児童版画交流展・WSなども人気

坂爪先生のワークショップには定員をこえる参加希望者があり、完成度の高い作品がたくさん出来上がりました。島根大学の学生がアシスタントとして五名入りましたが、このような形で勉強できる機会が得られ、今後、普及活動の広がりに期待したいです。参加者からまたぜひ継続的に開催してほしいという声もありました。

「国際児童版画交流展・ポーランドと日本」も同時開催で松江と出雲を巡回しました。ポーランドの子どもたちのカラフルな作品と、島根の子どもたちの完成度の高い作品を見比べながら楽しんでもらうことができました。会場に訪れた子どもたちがポーランドの子どもたちにお手紙を書いたりするシーンもありました。「心から感動できた」という感想からみができます。島根大学の美術専攻の学生や、高校の美術部の生徒、地域の版画の愛好家の方々が顔見知りになり版画の話で盛り上りました。搬出に駆けつけてくださった斎藤先生、角間先生、有年先生とも打ち解けて交流が深まりました。手作りおにぎりとお茶で空腹を満たしながら、楽しい語らいのひと時もありがとうございました。「ポーランドの作家の力強さに圧倒された」とか「日本の作家と比べてみると面白い」とか「これが版画? びっくりした」など。その中で一番多かつたのがデジタルプリントについての質問でした。

今なぜポーランドなのか?

会期中たくさんの方々が声をかけてくださいました。「ポーランドの作家の力強さに圧倒された」とか「日本の作家と比べてみると面白い」とか「これが版画? びっくりした」など。その中で一番多かつたのがデジタルプリントについての質問でした。

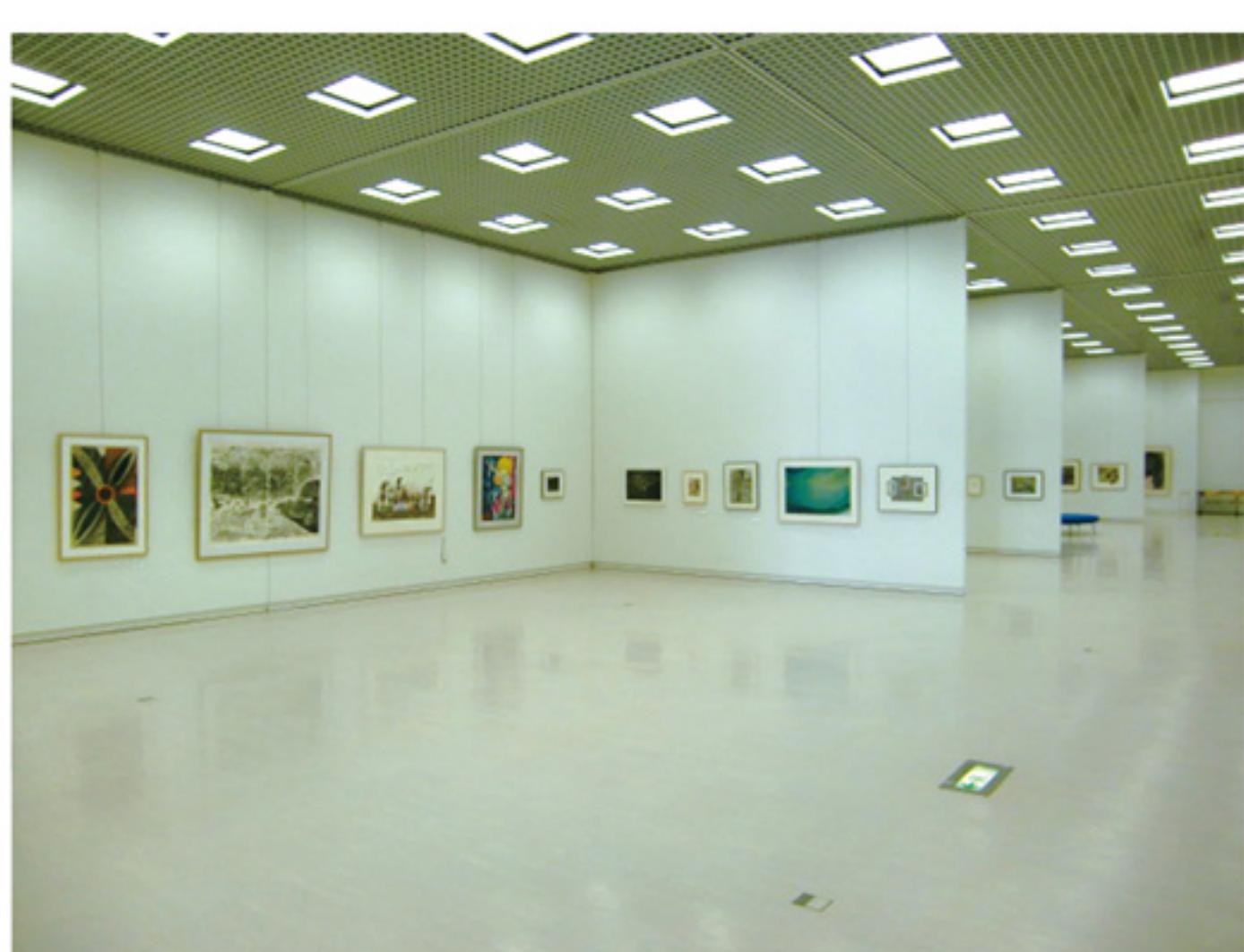
なりポーランドと日本の作品を対比させながら鑑賞できるレベルの高い展示になつたと思います。

夏休みに入つてすぐの連休にかけての開催だったこともあり観覧者数が県外からも含めてぐんぐん伸びていきました。七月十九日に一〇〇〇人を達成しました。

児童版画展と同時開催だったこともあり、小学生を含む家族連れや、県外からの観光客の方々も多かったです。高校生が校外活動として観覧してくれたことは今回の展覧会での特徴でもあり、子どもから大人までたくさんの方々に版画を楽しんでもらうという目標が達成したのではと喜んでいます。総入場者数は一六六三名、図録に興味をもたれる方も多くつたし、個々の作品や作家についての問い合わせもたくさんあり、手ごたえを感じました。

山陰中央新報、島根日日新聞、松江マーブル、出雲ケーブルビジョン、NHK松江放送局などたくさん

のメディアがとりあげてくれ、特にNHKでの三回にわたる放映は、ポーランド作家の作品をとりあげて具体的な説明も入れたスクープで、反響も大きかったです。このような質の高い国際的な作家の作品が島根にいながらにして鑑賞できることはすばらしい。とのコメントもありました。



人と人をつなぎ新しい風が

美術館のチラシやTVのお知らせなどでこの展覧会のことを知り、ボランティアを申し出てくれた方々がたくさんいました。また版画を大学で勉強しているけれど途切れているとか、これから版画を勉強したいという方が自然と集まり、会期が終わることには、島根大学の美術専攻の学生や、高校の美術部の生徒、地域の版画の愛好家の方々が顔見知りになり版画の話で盛り上りました。搬出に駆けつけてくださった斎藤先生、角間先生、有年先生とも打ち解けて交流が深まりました。手作りおにぎりとお茶で空腹を満たしながら、楽しい語らいのひと時もありがとうございました。島根でのこの経験を通して版画制作に向かう仲間と共に手を取り合つて次世代の版画文化の振興にわっていきたいと思います。

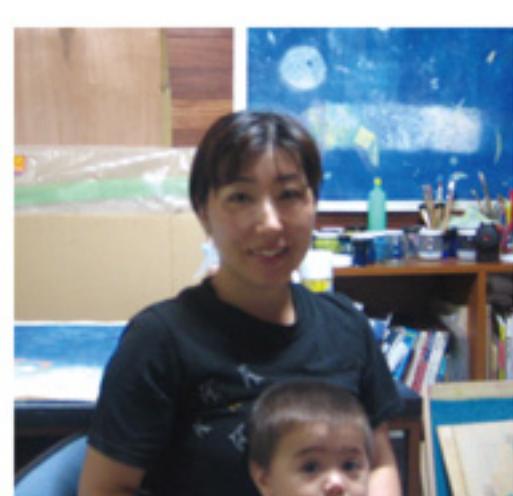
「SHIMANE 版画へ未来へ・・・」

最後に私事ですが、今回の島根巡回展の準備等も含め搬入から搬出、会計処理など様々な仕事に関わることで改めて京都版画の実行委員会の皆様のご苦労を知りました。教育現場で日々の雑事に追われながらの活動だったのでたくさん心配や迷惑をおかけしましたが、電話やメールで連絡を取り合いました。京都には何回も往復しました。行き詰ったとき、困ったときにはいつでも助けてください、心強かったです。特に資金面でのやりくりやファンの利用などについて多くのことを学びました。島根の会員が少ないことで、京都、九州などからたくさんの会員の方々が手弁当で助つ人に駆けつけて下さったおかげで盛り上りました。本当にありがとうございました。

Printmaker's Association

作家紹介

Nishi Nippon



Domonkos Noriko

ドモンコス 紀子

水性木版

Q3 ドモンコス紀子さんの作品は、その美しい色彩に大変魅力があると思いますが、その色彩にどのようなイメージを持っておられますか？

特に色のことについて意識をしたことはないので、本や雑誌の写真や空の色など、その時強く心に残っている色がイメージの元になっていることが多いと思います。木版画というと、白黒で暗い絵というイメージがあるとよく言われるのですが、私自身、暗くて重い感

去年は入院、出産、育児でほとんど制作できず、制作に対する自信や気力も落ち込みがちだったので、落ち着いて制作ができる環境を整え、作品を発表する機会を少しでも増やしていきたいと思っています。赤ちゃんが家にいるのになかなか難しいのが、ますは、なんとか保育所に入れたいところです。（かなり難しいのが現状ですが）でも少子化の今（社会は、市などの子育てサポートがかなり充実します）。しでなくとも、何か制作と育児の両立ができるよう頑張ります。

Q1 版画制作を始めたきっかけを教えてください。

アメリカの美術大学に留学していた時に友達に勧められ、版画の授業をとったのがきっかけです。版画が職人仕事のように感じて興味を持ちました。その頃は主にリトグラフの制作をしていました。長く制作を続けることを考へるとリトグラフでは難しいと思い、地元の徳島大学に木版画の先生がいたこともあって徳島大学に編入学し木版画を始めました。

Q2 ご自身の作品の、テーマやコンセプト、最も大事だと考えている事を教えてください。

Q2 ツツミさんは、木版の拓刷りを使った独特的な技法で作品を制作しておられますか？その技法に至った経緯（自身の表現したいイメージと合わせて）簡単にご説明ください。



"I love you #03" / 縦五七×横八五センチ / 木版拓刷り、裏打ち / 2003

Q1 ご自身の作品の、テーマやコンセプト、最も大事だと考えている事を教えてください。

Q1 ご自身の作品の、テーマやコンセプト、最も大事だと考えている事を教えてください。

テーマはその時々で変わります。主軸となるコンセプトは、「目に見えないモノやコトに具体的なカタチを与える、これらをみた後に残る最終的なイメージや言葉の断片に、それらの本質的な部分がある」と考えていました。作品をつくる上で最も大事なことは、作家自身が何に興味を持ち、何を伝えたいのかだと思っています。また、たえず変化する時代の流れをすればやく感じ取ることも大切で、常に「今」の流れをされることを心がけています。

ツツミ アスカ

木版拓刷り
裏打ち



Asuka Tsutsumi

'80 京都府出身
'04 京都精華大学大学院修了

'03 大学版画展賞上賞
'04 京展版画部門市長賞
あおもり版画トリエンナーレ1部優秀賞
'05 個展/十一月画廊:東京('07,'09,'10)
The International Invitational Exhibition of Prints in Taiwan 2005
'06 京展版画部門京展賞
'07 京都府美術工芸新銳選抜展(京都市文化博物館)
'09 NIPPON TODAY/Kunsthalle Rostock:ドイツ

Q3 ツツミさんの作品は、花をモチーフにされたものが多見られます。描かれる花は単に美しいだけではない何かを感じます。ツツミさんにどうして、美しいものとはどんなものですか？



「イナズマドロップ」 H15XW10cm 水性木版 2008

Q4 今後の夢をお聞かせください。（作家活動以外でも）

現在、版画作品中心の発表となっていますが、それ以外の作品で展覧会がしたいですね。また、何をどう発表しようと海外でも受け入れてもらえるような強い作品をつくりたいです。他にも色々と挑戦したことがあるので体がもう一つほしいですよ（笑）。

○日本・ポーランド国際版画展に想う○ 有年 博行

今回日本の作家とポーランドの作家の交流展が古都京都で開催されたことは非常に意義深いものがあります。日本とポーランドの国と国との交流、クラクフと京都の街と街との交流、とりわけ版画芸術の交流は日本の版画界にとって、単に展覧会を開催するイベント以上にひとつの時代を代表する芸術の深い精神性を表現することにおいて、非常に貴重な機会を得たと言えるでしょう。

今日社会において芸術を取り巻く環境は大変厳しいものがあります。世界的に経済が閉塞した現状は芸術家の生活を脅かし、その崇高な精神すら蝕んでいきかねません。混沌とした世界経済の負のエネルギーにはひとりの芸術家の力では抗いかねます。世界は、我々芸術家に、その精神性の深さと未来を洞察する鋭い眼に対し、敬意と援助をしなければなりません。

そんな絶望的状況の中、この展覧会は開催されました。この会はポーランドの作家たちの情熱、クラクフのSMTGの関係各位、ポーランド大使館の熱意の賜物です。我々日本側作家にとって、これほどポーランドを代表する



写真撮影:パリアート田積佳奈

作家たちの多くの作品にふれる機会はめったにありません。その作品の一点一点に込められた思いは深く私たちの脳裏に刻み込まれました。ポーランドという国家が抱えてきた歴史を我々は今こそ思い起こし、その歴史のなかにこそポーランド作家たちの創造性の濃密な原点を見出した思いがします。展覧会場に足を踏み入れると、そこにはまさにポーランドそのものがあります。こんな象徴的な表現が過剰ではないほどポーランドの作品はぐいぐいと私たちをひきつけていきました。歴史を土台にした表現の重厚さが私たちを魅了していきます。ポーランドの作家たちのエネルギーは我々日本作家が持ち得ない性質のものかも知れません。が、その精神的深さが版画という表現媒体と見事に合致しています。

これほど版画の表現の可能性を見せてくれたことがかつてあっただろうか?我々日本作家はもとより学ばねばなりません。技法の多様性が日本作家にあります。その多様性が日本の作品の特徴です。個人の技術の高さは世界的にみても相当にあるのではないでしょうか。しかし問題はその技術の高さや、多様性にある気がします。ここで安易に結論づける

つもりはありません。単なる印象に過ぎませんが、ポーランド作家にあって、日本作家に無いもの。またその逆もあります。会場を歩きながら、感じ取る試みは版画という表現媒体を考える試みでもあります。私という一作家が感じ取る貴重な体験でもあります。版を媒体とした表現活動の可能性を探らなければなりません。伝統的技法の再認識や時代とともに開発されていく新しい技法の構築や展開、古きものと新しきものとの融合、何者にも囚われない自由な表現を版は秘めています。自由な表現はよりもなおさず自由な精神を意味します。果たして日本は自由な精神性に満ちているか?はなはだ疑問です。芸術が市民生活に満ちているか?これまたはなはだ疑問です。かつて日本は浮世絵という市井の芸術が市民生活に満ちていました。人々は毎日の生活の中に自然に芸術を取り入れていました。システムとして芸術が循環していたのです。いわば版画の黄金期でしょう。そして浮世絵を芸術として認識したのは西欧のコレクターたちです。現在、一昔前の矛盾と同じようなことが起きている気がします。悲しいかな、日本において版画は一段低い位置におかれ、様々な場面でその事態に遭遇します。驚くべき事態であり悲しき現実です。これはあくまでも一版画家の私見であってすべての版画家の意見を代弁するものではありませんが、あえてポーランドの人々に日本の現状をお知らせしたいのです。経済大国日本が芸術大国といえるのか?答えはNOです。芸術家は半死半生です。若い芸術家は死に絶えています。そして巷に流布するのは似非芸術ばかりです。芸術大国日本など何処にもありません。そんな時この展覧会が開催されたのです。希望を見出すことができるかもしれません。地方島根でも巡回され大きな反響をよびました。少しは希望の種をまくことができたようです。それもこれもポーランドの関係各位と京都版画実行委員会各位のおかげです。全てこの展覧会に携わっていただいた方々のおかげです。一実行委員としてお礼を申し上げます。そして今回の交流がさらに発展していくことを願って文責を果たしたいとおもいます。ありがとうございました。2010年8月

版画京都展実行委員会 活動報告

版画 KYOTO2010 選抜展は、2010年8月24日(火)~29(日)、ギャラリー恵風(京都)にて開催されました。出品者は加藤恵、竹原仁子、中東剛、牧野浩紀、三上景子(計5名)です。技法はそれぞれ違いますが、版画の魅力を見出だし表現している点では共通していると思いました。会期中は猛暑が続きましたが、たくさんの方にお越し頂きました。この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。(文:三上/写真:ツツミ)



お知らせ

会報の見開きページを
チリニューアルしました。

掲示板

会報にお寄せいただいた京都版画展の出品者の展覧会、活動情報です。詳細は会場等へお問い合わせください。

●朝日みお

<朝日みお銅版画展>
会期: 2010年10月26日~11月6日
場所: 乙画廊
大阪市北区西天満2-8-1
大江ビルディング101
TEL: 06-6311-3322

<朝日みお展=地の果て 空の果て=>
会期: 2010年11月18日~11月29日
場所: 玉川高島屋ルーフギャラリー
東京都世田谷区玉川3-17-1
玉川高島屋S・C本館R階
TEL: 03-3709-2222

●伊藤尚子

<伊藤尚子作品展(漆芸、版画)>
会期: 2010年12月7日~12月19日
場所: アートライフみつはし 〒606-8407
京都市左京区銀閣寺前町23

●角間貴生

<角間貴生と日韓中の友人展>
会期: 2010年12月21日(火)~12月26日(日)
場所: 福岡市美術館・特別展示室B
〒810-0051 福岡市中央区大濠公園1-6
TEL: 092-714-6051

●片岡れいこ

<片岡れいこ個展>
会期: 2010年12月6日(月)~12月11日(土)
場所: 青樺画廊 〒104-0031
東京都中央区京橋3-5-4 吉井ビル3F
TEL: 03-6856-2006

●武田あずみ・富永真理

<KYOTO版画2010奨励賞展>
会期: 2011年3月6日~3月13日(前期:武田)
3月15日~3月20日(後期:富永)
場所: ギャラリーヒルゲート2F 〒604-8081
京都市中京区寺町通三条上ル天性寺前町53

●ツツミアスカ・ドモンコス紀子

<ツツミアスカ・ドモンコス紀子展>
会期: 2010年11月9日(火)~11月14日(日)
場所: ギャラリー恵風1F 〒606-8392
京都市左京区丸太町通東大路東入ル南側
TEL: 075-771-1011

●三上景子

<三上景子展>
会期: 2010年12月7日(火)~12月11日(日)
場所: ギャラリー恵風 〒606-8392
京都市左京区丸太町通東大路東入ル南側
TEL: 075-771-1011

●山本桂右

<山本桂右展>
会期: 2010年10月30日~11月14日
場所: ギャラリー白川 〒605-0822
京都市東山区祇園上弁天町430-1
TEL: 075-532-2616

編集後記

ようやく涼しくなりましたが、この夏の話題といえば、とにかく暑かった!につきますね。わたしが育てている植物たちはこの暑さでだいぶダメージを受けましたが、この猛暑のなか多肉植物だけが元気にパワフルに増殖し、その生命力とタフさに感心する日々でした。来年はほどほどの暑さでありますように。

会報担当: 川端千絵、ツツミアスカ、三上景子 編集: ツツミアスカ 発行: 版画京都展実行委員会 問い合わせ先(事務局): 075-956-6910

